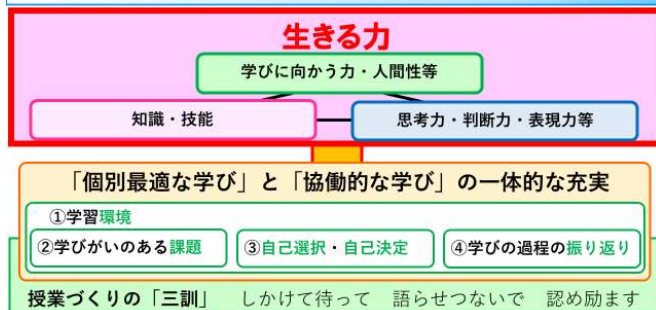


I 特 集

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の 一体的な充実

一人一人の子どもに確かな学力を ～全教職員で～



※香川県教育委員会 義務教育課 学力向上モデル校事業資料より引用

香川県教育委員会では、全ての児童生徒に、これからの社会で求められる資質・能力を育成することを目指し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進しています。

そして、授業改善の視点として、次の4つを提案しています。

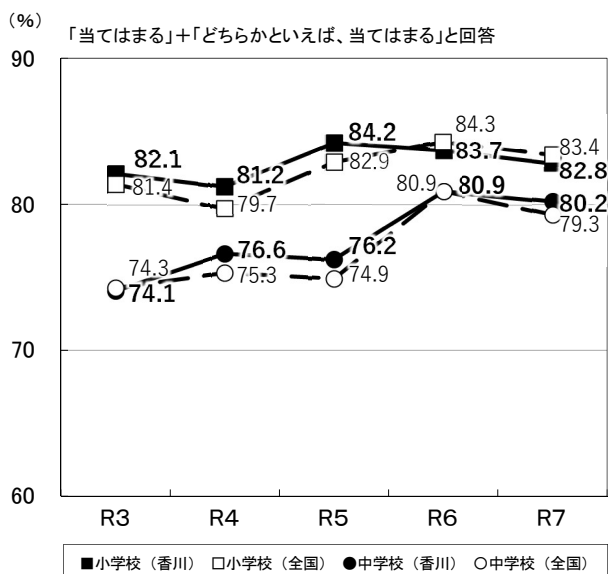
- ①学習環境
- ②学びがいのある課題設定
- ③自己選択・自己決定
- ④学びの過程の振り返り

「個別最適な学び」の進捗状況は？

個に応じた指導の取組は停滞傾向にある

□34 5年生まで(1,2年生のとき)に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

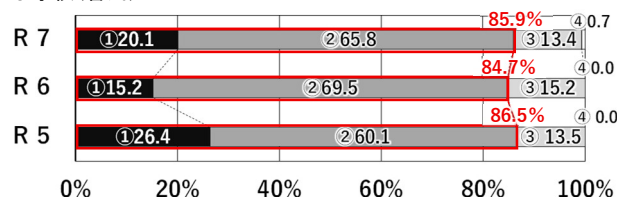
【児童生徒質問調査】



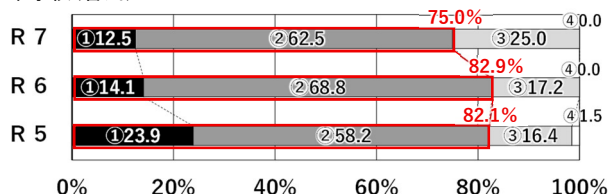
■30 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学習指導において、児童(生徒)一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか

【学校質問調査】

小学校(香川)



中学校(香川)



Column

「□34 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で82.8%（全国－0.6pt）、中学校で80.2%（全国＋0.9pt）であり、昨年度と比較してわずかに減少しています。

また、「■30 前年度までに、学習指導において、児童（生徒）一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫した」と肯定的に回答した学校の割合は、小学校では昨年度より1.2pt増加し、中学校では7.9pt減少しています。「個別最適な学び」の実現に向けて、日々の授業の中で、児童生徒一人一人に応じて、①学習環境を整備したり、③自己選択・自己決定のある学習にしたりすることに真摯に取り組んでいるからこそ、その難しさを感じているのかもしれませんが。どのような点に留意すればよいのでしょうか？

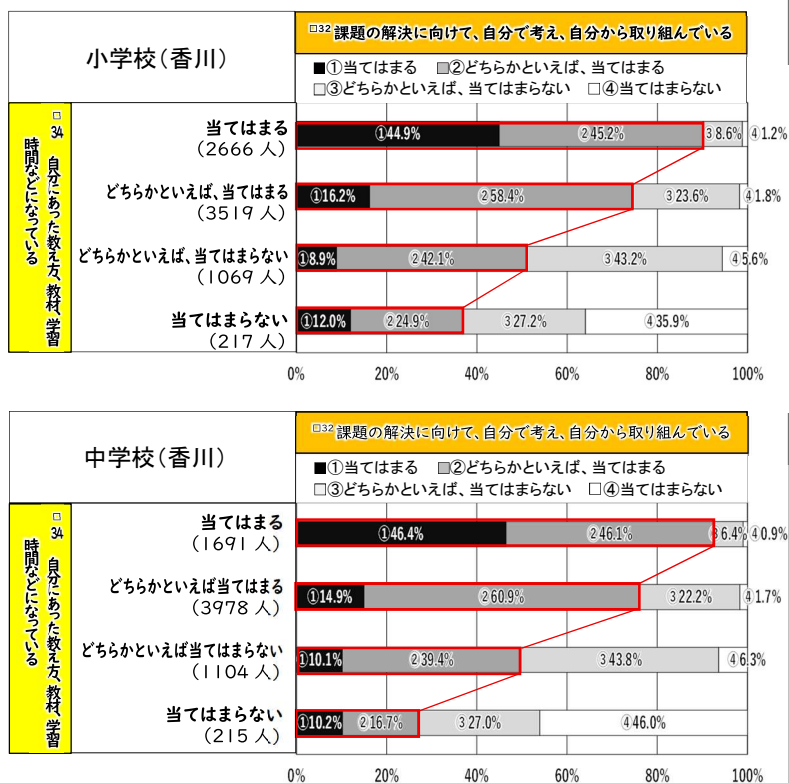
「個別最適な学び」の目的を考える

自分にあった学び方になっていることと、主体的な取組には相関がある

クロス集計

□34 自分にあった教え方、教材、学習時間などになっている

□32 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる



Column

「□34 自分にあった教え方、教材、学習時間などになっている」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「□32 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と肯定的に回答している傾向が見られます。

先生方が日々取り組まれている「個別最適な学び」の目的は、全ての児童生徒が主体的に学ぶ楽しさを実感することです。①学習環境の整備や③自己選択・自己決定の機会の提供は目的化しがちですが、児童生徒の意欲を引き出すきっかけに過ぎません。

本当に大切なのは、児童生徒自身が自分の特性や学び方を自覚できるようにすることです。その気付きこそが、一人一人を主体的な学びへ導く鍵です。多様な個性に寄り添い、自分の力で学び進めるよう支えることが大切です。

主体性を引き出す鍵は「児童生徒とともに考える」プロセス

本年度の「学力向上モデル校事業」、小学校3年生国語科での実践です。「自分が選んだ本のあらすじをまとめて紹介する」という単元のゴールを設定し、単元のはじめに、児童とともにゴールまでの見通しを話し合い、学習計画を立てました。その際、「いきなり長い文章は難しい」という児童の意見を取り入れ、まず簡単な物語で練習をする時間を設けています。

本時では、1年生で学習した簡単な物語文を扱い、第一場面を全体で読み解きながら、あらすじをまとめるコツを確認しました。その後、各自が紹介したい場面を選んで取り組めるようにし、主体性を促しました。

本時の授業を通して、「自分たちの力でできた」という達成感を得ることが、単元を通じた主体的な学びにつながりました。



Column

文部科学省の※1 サポートマガジン「みるみる」では、児童生徒が、主体的に学びを進める力を身に付けるためには、教師がきめ細かく指導・支援することに加えて、児童生徒一人一人が主体的に学習を調整できるようにすることが大切だと述べられています。

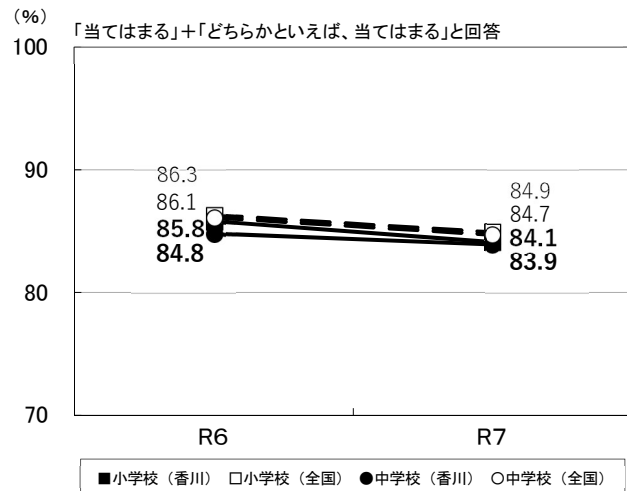
この実現には、教師が1時間の授業ではなく、単元全体で学習をデザインし、学習方法を教えながら徐々に児童生徒に委ねていく授業が効果的です。単に③自己選択・自己決定の場を設けるだけでなく、左の実践のように、児童生徒の声に耳を傾け、学習の進め方をともに考えることも、主体性を引き出す有効な手立てとなるでしょう。

※1 P18へ

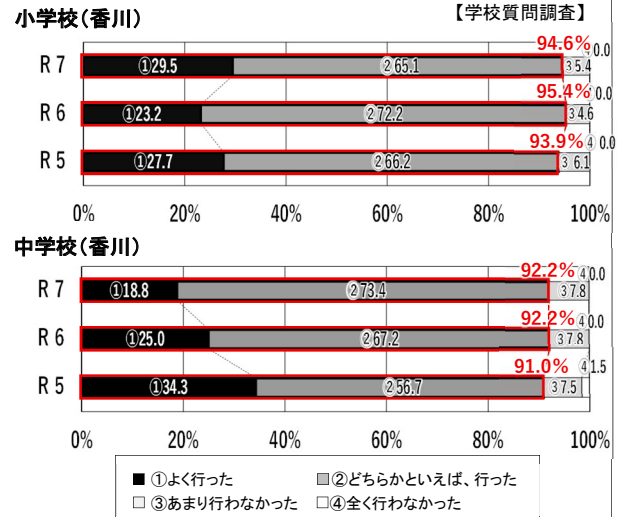
「協働的な学び」の進捗状況は？

各校で「協働的な学び」の取組が大切にされている

□35 学級の友達(生徒)との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか
【児童生徒質問調査】



■31 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか
【学校質問調査】



Column

「□35 学級の友達(生徒)との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で84.1%、中学校で83.9%であり、全国と同様に推移しています。また、「■31 学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した」と肯定的に回答した学校の割合は、小・中学校ともに90%を超えています。が、中学校で「よく行った」と回答した割合が減少しています。生徒が、それぞれのよさを生かしながら交流し、学びを深めるような「協働的な学び」の場をつくることに難しさを感じているのかもしれません。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる

本年度の「学力向上モデル校事業」、中学校社会科の実践です。まず、日本列島における国家形成について、「なぜ日本は東アジアの国々との関わりをもとうとしたのか」という単元を貫く課題を設定しました。

本時は、単元の終末にその課題を解決する場面です。生徒は、これまでの学びを基に予想を立て、それが正しいか確かめるために探究していきます。その際、「一人で取り組んでもよいし、友達と協力してもよい」という学び方を生徒が選択できる環境が定着していました。生徒たちは、ノートや一人一台端末を手に探究を進めます。考えが行き詰まったり、確信を得なくなったりすると、必要に応じて友達と協議し、妥当性を確かめていました。

さらに、全体で考えを共有する場面では、教師が板書で生徒の意見を整理したり、全員で資料を確認したりして、生徒一人一人が、自分の考えをまとめ直すことができるようにしていました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の具体化が図られている好事例です。



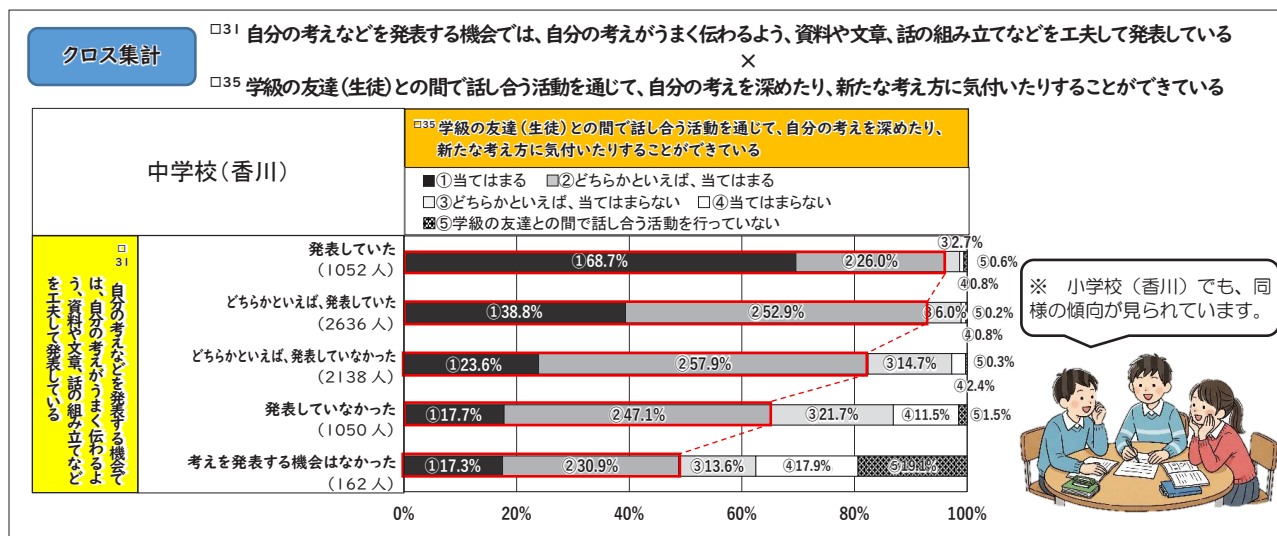
Column

文部科学省の※1 サポートマガジン「みるみる」では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を別々のものとして考えるのではなく、一体的に充実させることが、児童生徒の資質・能力を育む上で不可欠であると述べられています。そのため、一人で学ぶ場面と、複数で学ぶ場面を意図的に組み合わせ、それぞれの長所を生かすことが重要です。

※1 P18へ

相手意識や目的意識をもった話し合いの場をつくる

聞き手を意識した発表と、学びを深めることには、相関がある

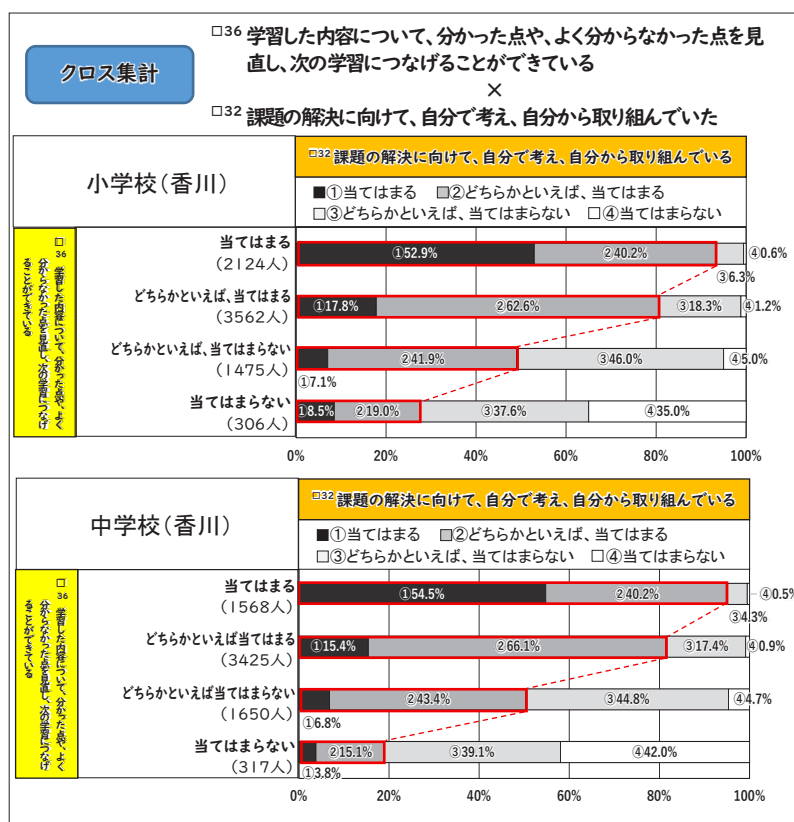


Column

「□31 自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表している」と肯定的に回答した生徒ほど、「□35 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と肯定的に回答しています。「伝えたい」という思いをもつことが、学びを深める上で大切だと示唆されます。この思いを高めるには、伝える相手や場面を具体的に設定したり、児童生徒自身の「問い」を学習の出発点にしたりするなど、児童生徒にとって、②学びがいのある学習課題となるように工夫することが大切です。

振り返りの内容やタイミングを工夫する

学習内容を見直し次の学習につなげることと、主体的な取組には相関がある



Column

「□36 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「□32 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と肯定的に回答している傾向が見られます。

このことは、④学びの過程の振り返りをする中で、児童生徒が自分の学習状況や成長を客観的に捉えられているためと考えられます。そして、そのような自己認識が、次の学習へ主体的に取り組む力へとつながっていると推察されます。

効果的な振り返りのためには、教師が単元全体を見通して児童生徒の学びを構想し、振り返りの内容やタイミングを工夫することが重要です。さらに、一人一人が自らの学びを表現できる機会をつくることで、主体的な学びを促すでしょう。

検証から改善へ

全国学力・学習状況調査の目的は、「児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てること」「教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること」です。つまり、教育委員会や学校が、それぞれの課題を明確にし、その課題に対して具体的な対策を講じ、その対策の成果を評価し、次の課題を見つけて取り組んでいくというサイクルが大切なのです。

県教育委員会としては、P6で述べたように、全ての児童生徒に「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じて、これからの社会で求められる資質・能力を育成することを目指し、『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実に向けた授業改善を推進しているところです。そうした中で、全国学力・学習状況調査の結果から、教科に関する調査では、「資料などから問題解決に必要な情報を見付け出すこと」はできるものの、P2で示したように、「資料に書かれている文や図が示している意図は何かを考え、解釈して表現することや、知識・技能を様々な問題場面に生きて働くものとして習得すること」に課題があることが明らかとなりました。また、質問調査では、『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実に向けて、P6～P9で述べてきたような課題が明らかとなりました。

こうした課題に対し、県教育委員会が考える授業改善の方策は次のとおりです。教科を問わず、すべての教職員が日々の授業でこの方策を実施するとともに、機会を捉えてその成果を評価し、さらなる改善に努めるようお願いします。

(1) 教科に関する調査の課題に対する授業改善の方策

課題1 資料に書かれている文や図が示している意図は何かを考え、解釈して表現する

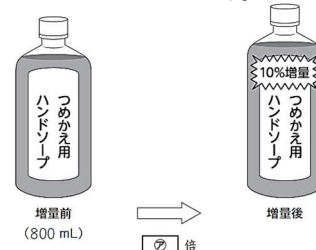
授業ですべきこと！

資料や友達の発言の意図などについて、自分の言葉で説明する時間をとる

課題1を解決するための方策として、例えば、「小学校算数設問4」のような、図や表、資料などを示したときに、その図や表、資料などが、何を表そうとしているのか、また、何を問おうとしているのか、児童生徒がその意図を説明する活動を仕組むことが大切です。

その他にも、国語では、具体的なインタビュー場面や資料等を見ながら、発言者がなぜそのように発言したのかをグループなどで説明し合う活動を取り入れたり、理科では、実験の際に、なぜその実験方法がよいのか、なぜその条件で実験するのかといったことを児童生徒が説明する時間を設定したりすることが効果的です。

家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800mLです。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。上の⑦にあてはまる数を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

R7 小学校算数設問 4 より

課題2 知識・技能を様々な問題場面に生きて働くものとして習得する

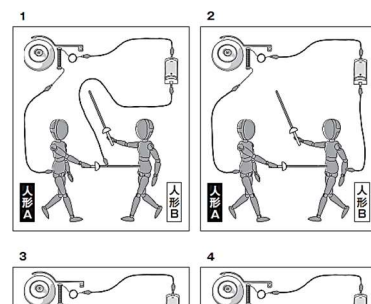
授業ですべきこと！

知識・技能を活用する場面を授業や生活場面に意図的に位置付ける

課題2を解決するための方策として、例えば、「小学校理科設問2(2)」のように、「電流の流れが輪になっていると電流が流れる」という知識を、実際のおもちゃ作りなどに活用しながら、より習得を促すことが考えられます。

その他にも、国語では、漢字を生活場面の中で使用したり、自分の書いた文章をポイントを絞って推敲したりする機会を増やすことや、数学では、ある事柄が常に成り立つとは限らないことを具体的な反例をあげて説明する活動を位置付けるなど、生きて働くものにしていくことが大切になります。

人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かね（ベル）が鳴る」のは、どのような回路でしょうか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

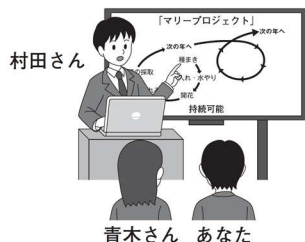


R7 小学校理科設問 2 より

(2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業改善の方策

◆ 学習環境

ア R7中学校国語設問 2 より

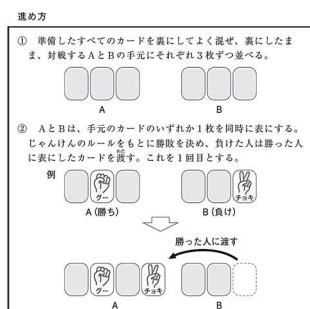


アの設問では、「村田さんが、国語の時間に学校の活動を地域に広げるアイデアについての提案スピーチを行うために事前リハーサルを実施する」という学習場面が示されています。ここでは、生徒の必要に応じてスライドを提示しながらスピーチができる機会を確保しています。

このように、日常的にICTを活用できる機会を確保するなど、学習環境を整備することが大切です。P12 からの特集2では、児童生徒主体のICT活用に向けて記事を掲載していますので、ぜひご覧ください。

◆ 学びがいのある課題設定

イ R7中学校数学設問 7 より



イの設問では、「優斗さんと芽衣さんが、地域イベントで『じゃんけんカードゲーム』を計画する」という学習場面が示されています。ゲームの進め方を考える中で、様々な場面があることに気づき、「それぞれに勝ちやすさが異なるのではないか」という疑問を持ちます。学習は、その疑問を解決しながら進んでいきます。

このように、児童生徒の知的好奇心を喚起できるよう、実社会や実生活における問題場面とつなぐことで、児童生徒の「解決したい」という思いや願いを引き出すなど、児童生徒にとって学びがいのある課題を設定することが大切です。

◆ 自己選択・自己決定

ウ R7小学校国語設問 2 より



ウの設問では、「伝統工芸品について推薦する『ちらし』を書くために、『ちらし』の中の説明する文章等を吟味する」という学習場面が示されています。山田さんは、伝統工芸品の中から、自分が推薦したい「手ぬぐい」を選び、山田さん自身が見出した「手ぬぐい」のよさを、「ちらし」に表現しようとしています。

このように、「推薦する文章の書き方を学ぶ」という単元の大きな目標は共通する中でも、全員が同じ道筋で学習を進めるだけでなく、学習教材や問題を選択したり、解決方法を選択したりするなど、自己選択・自己決定できる場面を保障することが大切です。

◆ 学びの過程の振り返り

エ R7中学校理科設問 1 より



エの設問では、「水道水と精製水について探究してきたことを発表した後、その発表内容をグループで振り返る」という学習場面が示されています。Bさんは疑問に感じたこと、Cさんは考えの変容、Dさんは生活とのつながりに着目して、それぞれが振り返ろうとしています。

このように、学習内容だけでなく、学習過程や自己の変容、課題の発見など、多様な視点から振り返ることができるよう働きかけることが大切です。

ここには、県全体の課題を解決するための授業改善の方策を示しましたが、自校の課題における授業改善の視点として当てはまるものばかりではないかもしれません。大切なのは、まずは、各学校において調査結果を分析することで自校の課題をしっかりと把握し、課題に応じた授業改善の方向性を明確にすることです。そして、授業改善に取り組んだ結果を、日々の授業等での見取りや定期的なテスト等で検証し、さらに次の課題把握、取組につなげていきましょう。そうすることで、次年度の全国学力・学習状況調査では、その成果が現れるはずです。各校での取組が進むよう、県教育委員会でもサポートいたします。

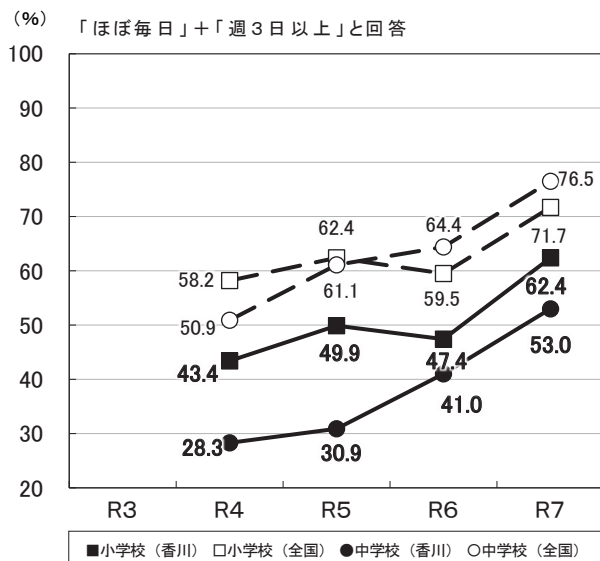
児童生徒主体の ICT 活用に向けて

一人一台端末の使用・活用頻度は増加している

「ほぼ毎日」＋「週3回以上」活用している割合が増加

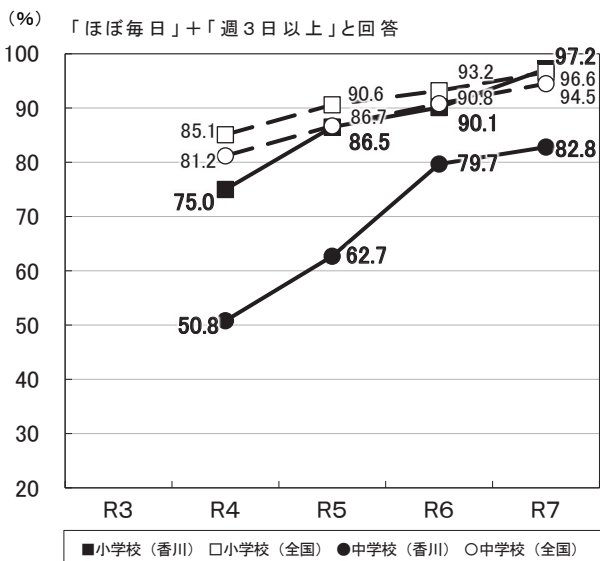
□28 5年生まで(1,2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

【児童生徒質問調査】



■58 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

【学校質問調査】

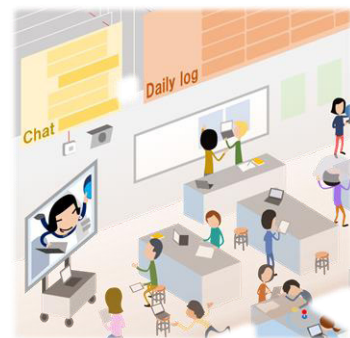
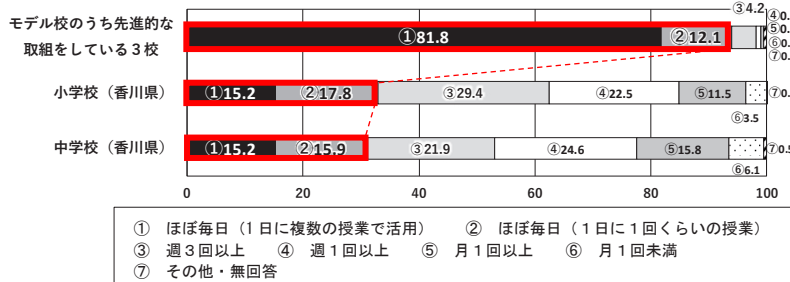


Column

上のグラフから、一人一台端末の活用頻度は増加しています。一方で、「使用した(活用した)」という児童生徒と教師の感覚に差が見られます。教師主導の活用から、児童生徒が「自ら使った」と実感できる、主体的な活用へと充実させていくことが大切です。このことについて、令和6年度の「ICT活用推進モデル校事業」の学校のうち、先進的な取組をする3校の調査結果は、次のようになっています。

□28 5年生まで(1,2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

【児童生徒質問調査】



グラフから分かるように、「ほぼ毎日活用した」と回答した児童生徒の割合は90%を超えています。授業を参観した際には、ICT機器について、教師の指示を待って使用するのではなく、児童生徒が目的に応じて主体的に活用している姿が見られました。

様々な使い方を学び、必要に応じて使用できる学習環境が整えられることで、インターネットを使って情報を収集するだけでなく、クラウド環境を生かして友達の考えを参照したり、思考ツール等を使って交流したり、学習の振り返りを蓄積したりと、文具のように活用できていました。

児童生徒が目的的にICTを活用することが大切です。

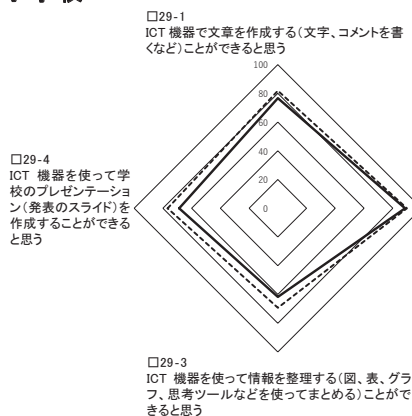
活用することを通して情報活用能力の育成を

情報活用能力の育成に課題が見られる

□29-1～29-4 あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器(インターネット)を使って・・・【児童生徒質問調査】

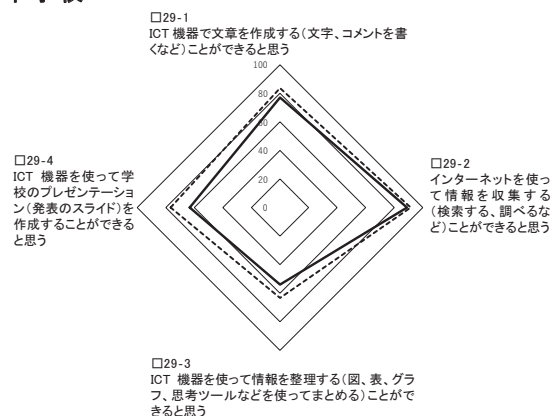
「とてもそう思う」＋「そう思う」と回答(%)

小学校



—小学校(香川) ----小学校(全国)

中学校



—中学校(香川) ----中学校(全国)

Column

モデル校のように、児童生徒が主体的にICTを文具のように使う姿が理想ですが、県全体で見ると、情報活用能力の育成に直結しない現状も見られています。□29-1、3、4 ICT機器で文章を作成したり、情報を整理したり、プレゼンテーションを作成したりするなど、情報活用能力についての質問に、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した児童生徒の割合は、全国を下回っています。学習指導要領総則において、情報活用能力は、言語能力、問題発見解決能力と同様に、学習の基盤となる資質・能力と位置付けられています。これからの社会において、自らの考えを整理して発信する資質・能力の育成は重要でしょう。

目的を明らかにした活用と委ねる姿勢を

香川県教育センターの「児童生徒が主体的にICTを活用して取り組む学習の充実に向けた調査研究」では、児童生徒一人一人が「学び手としての主人公」になるICT活用に向け、次の「5つの視点」と「3つのキーワード」を提案しています。

授業改善！「学び手としての主人公」になるICT活用



5つの視点のうち、どの視点を取り入れて学習活動を改善するかを考えます。

教師の授業改善に関わるICT活用5つの視点

- A 多様性に対応する
- B 多様性を生かす
- C 学びの状況をとらえさせる・とらえる
- D ベストミックスに組み合わせる
- E 教室外とつなぐ



児童生徒がどのタイミングでどの機能を活用すれば視点の効果がでるのかを考えます。

児童生徒の学び方に関わるICT活用3つのキーワード

- A 必要なタイミング
- B 機能は共通、活用する時は自分の必要な時に
- C ICT(機能)を取捨選択
- D 機能は自分の必要なものを、活用する時は共通
- E ウィットでも自由に

(例)小学校1年生生活科

B 多様性を生かす A 必要なタイミング

家庭で実践した仕事について記録した動画や写真を指しながら仕事のコツについて話し合うことで、「何をしているところ?」「どうやっているの?」などの質問が出やすくなり、質疑応答が活性化することで気付きの質を高める。

Column

児童生徒主体のICT活用を実現するには、児童生徒にどのような力を身に付けさせたいかを明確にし、目的を明らかにした学習活動を設定することが必要です。そして、児童生徒の成長に応じて、教師の指導や支援を徐々に減らし、委ねていくことが大切です。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業改善と重なる部分が多いのではないのでしょうか。

資料特設サイト

(各校での授業研究、研修にご活用ください)

<https://www.kagawa->

[edu.jp/educ01/section/research/jouhou#frame-969](https://www.kagawa-edu.jp/educ01/section/research/jouhou#frame-969)



詳細な内容や、別の事例についてはこちらから

KEC 香川県教育センター
Kagawa Prefectural Education Center

※ 令和6年度 香川県教育センター研究発表会 調査研究2発表資料より引用

教職員の支え合う集団づくり

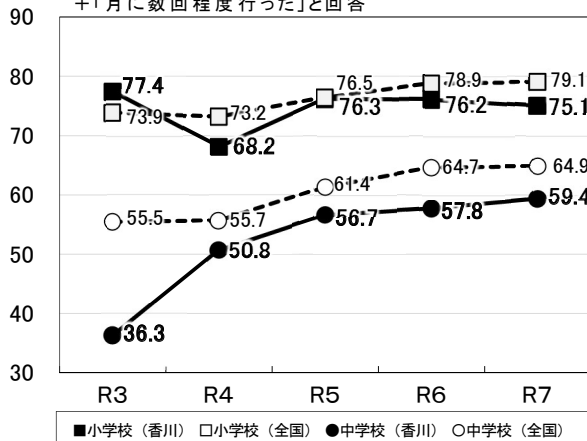
チームで支える環境が資質向上につながる

(1) 授業や学級の問題を抱えた教員への対応について

【授業で問題を抱えた教員への対応】

■11 前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか 【学校質問調査】

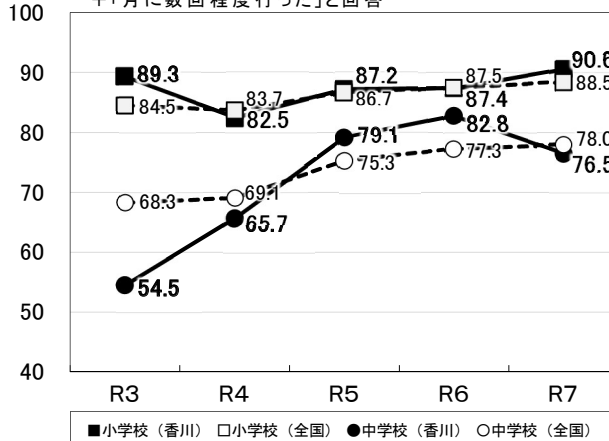
(%) 「週に1回程度、または、それ以上行った」
+「月に数回程度行った」と回答



【学級の問題を抱えた教員への対応】

■12 前年度に、教員が学級で問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか 【学校質問調査】

(%) 「週に1回程度、または、それ以上行った」
+「月に数回程度行った」と回答

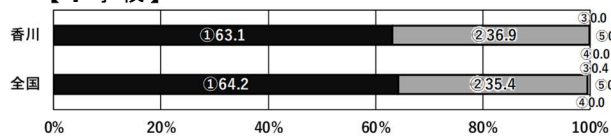


(2) チームで支える職場づくりについて

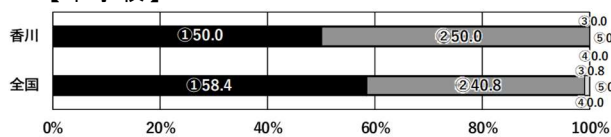
【適切な役割分担や連携協働】

■21 学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員(支援スタッフを含む)の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか 【学校質問調査】

【小学校】



【中学校】



■ ① ② ③ ④ ⑤
 ■ ① ② ③ ④ ⑤
 □ ③ ④ ⑤
 □ ④ ⑤
 □ ⑤

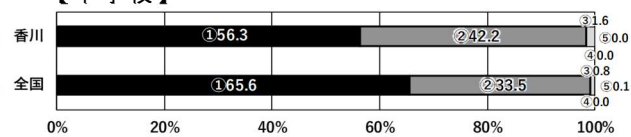
【組織的に対応する体制の構築】

■23 教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していると思いますか 【学校質問調査】

【小学校】



【中学校】



■ ① ② ③ ④ ⑤
 ■ ① ② ③ ④ ⑤
 □ ③ ④ ⑤
 □ ④ ⑤
 □ ⑤

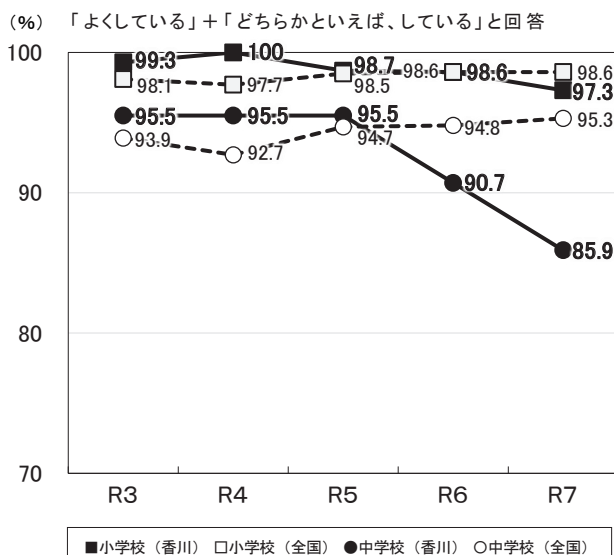
Column

「■11 授業で教員が問題を抱えている場合」に「月に数回程度以上、率先して話し合いを行った」と回答した学校の割合は、小学校は75.1%、中学校は59.4%でした。また、「■12 学級で教員が問題を抱えている場合」に「月に数回程度以上、ともに問題解決に当たった」と回答した学校の割合は、小学校は90.6%、中学校は76.5%でした。また、本年度から、「■21 適切な役割分担や連携協働」や「■23 組織的に対応する体制の構築」についての質問項目が追加されました。これらの結果から、各学校において、日々の授業や生徒指導上の問題について、困ったことを相談できる環境が整っていることが分かります。今後も、チームで支える職場環境づくりについて、「■21」や「■23」の視点を意識し、充実させていくことが大切です。

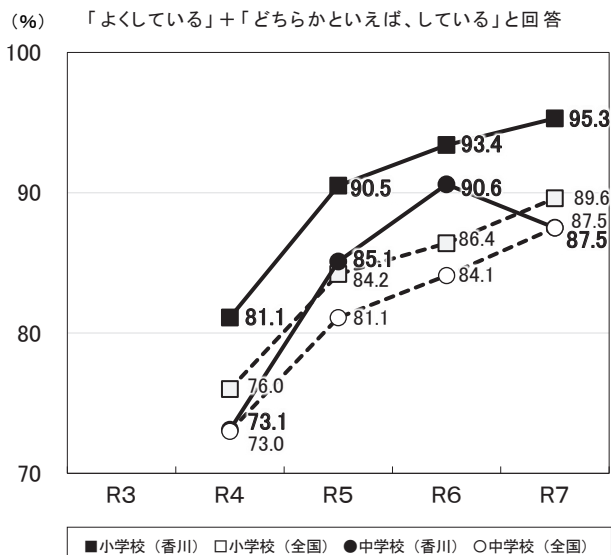
実践的な研修や専門性を高める研修の機会の充実を

実践的な研修や専門性を高める研修の実施状況

■18 授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか
【学校質問調査】



■19 個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか
（オンラインでの参加を含む）
【学校質問調査】



Column

「■18 授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか」の質問に、肯定的に回答した学校の割合は、小学校で 1.3pt、中学校で 4.8pt 減少しています。この結果には様々な要因があると思いますが、その一つに、日々の多忙感から、授業研究や事例研究等に取り組むことができないと感じているのではないかと推察します。多忙な学校生活ですが、その中心に据えるべき最も大切なものは授業です。先生方の創意工夫によって、児童生徒が「できた」「わかった」と実感できる授業にしていけること、また、一人一人と向き合い成長を支えていくことが、生きる力を育んだり、自己肯定感を高めたりすることにつながります。そのため、先生方一人一人が、同僚と日々の授業を見せ合う、短時間のオンライン研修を受講するなど、各校で工夫して、研修の機会を得ていくことが大切ではないでしょうか。

また、「■19 個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか」の質問に、肯定的に回答した学校の割合は、中学校で 3.1pt 減少したものの、全国と比較して同等以上の水準で推移しています。昨年に引き続き、自らの専門性を高めるために、自己研鑽する先生方の様子が伺えます。

香川県教育委員会では、確かな学力の育成と個に応じた教育の推進に向け、「学力向上モデル校事業」や「総合授業リーダー公開授業」など、様々な研修の場を設定しています。

『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現推進モデル校事業』では、小学校国語科の授業において、全校生に発表する「カモフラージュ発表会」を行うために、教科書教材「自然のかくし絵」を用いて、段落相互の関係やその段落の内容の捉え方を学び、児童の主体的な取組につなぐ授業が公開されました。所属や年代の違う多くの先生方が集まり、様々な角度から授業を振り返ることで、授業者だけでなく、参加された先生にとっても学びの多い研修の場となっていました。

ぜひ、「学力向上モデル校事業」や「総合授業リーダー公開授業」を、研修の機会として活用してください。



「学力向上モデル校事業」
「総合授業リーダー公開授業」
については、P18を参照

開かれた学校づくり

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の取組を生かす

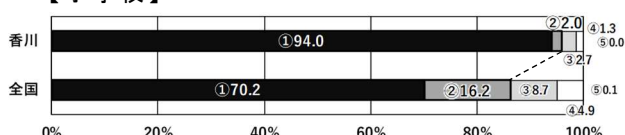
学校と地域や保護者の相互理解が進む

【保護者や地域の意見を学校運営に反映】

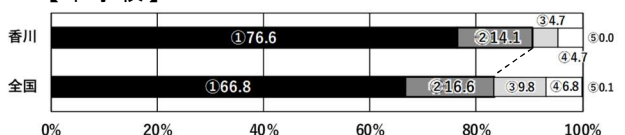
■75 コミュニティ・スクール等の仕組みを活用して、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映していますか

【学校質問調査】

【小学校】



【中学校】

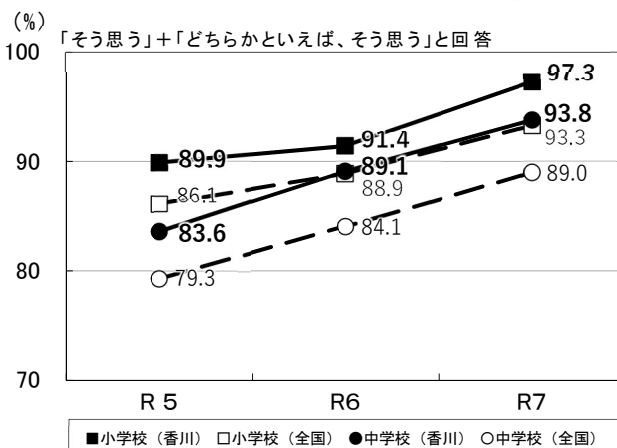


- ① コミュニティ・スクールの仕組みを活用して反映している
 ② 類似の仕組みを活用して反映している
 ③ 選択肢1, 2は行っていないが、選択肢1, 2以外の取組を通じて反映している
 ④ 反映する仕組みがない ⑤ その他・無回答

【学校と地域や保護者の相互理解】

■77 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか

【学校質問調査】

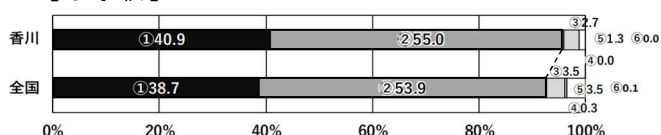


【社会に開かれた教育課程】

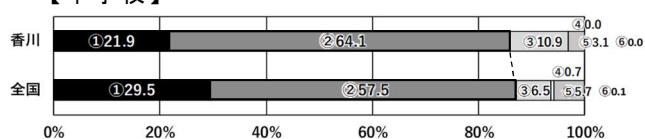
■78 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、「社会に開かれた教育課程」の実現効果がありましたか

【学校質問調査】

【小学校】



【中学校】



- ① そう思う ② どちらかといえば、そう思う
 ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない
 ⑤ 取組を行わなかった ⑥ その他、無回答

Column

「■75 コミュニティ・スクール等の仕組みを活用して、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映している」と肯定的に回答した割合は、小・中ともに90%を越えており、全国を上回っています。特に小学校において、「コミュニティ・スクールの仕組みを活用している」と回答している学校が94.0%と高く推移しています。中学校は、76.6%と全国を約10pt上回っています。また、「■77 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まった」と肯定的に回答した割合は、小・中ともに昨年度から増加し、一層全国を上回りました。「■78 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、『社会に開かれた教育課程』の実現に効果があった」と肯定的に回答した割合も小・中ともに高く推移しています。

これらのことから、香川県の小・中学校は、学校運営に関して、学校だけで閉じることなく積極的に保護者や地域と関わり、地域の中の学校として、ともに児童生徒を育てようとする意識が高まっていると言えるのではないのでしょうか。

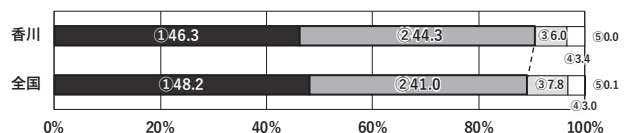
学校・家庭・地域の更なる連携に向けて

【保護者や地域住民との協働による活動】

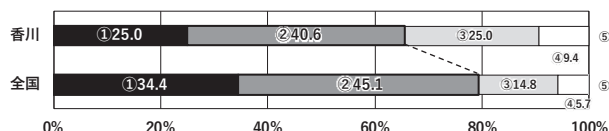
■76 地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか

【学校質問調査】

【小学校】



【中学校】



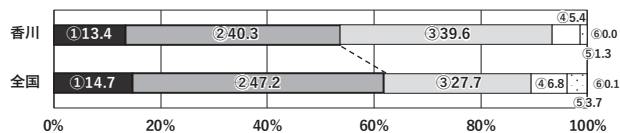
- ① よく行った ② どちらかといえば、行った
③ あまり行わなかった ④ 全く行わなかった
⑤ その他・無回答

【教員の業務負担軽減への効果】

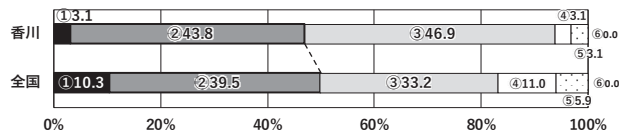
■79 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか

【学校質問調査】

【小学校】



【中学校】

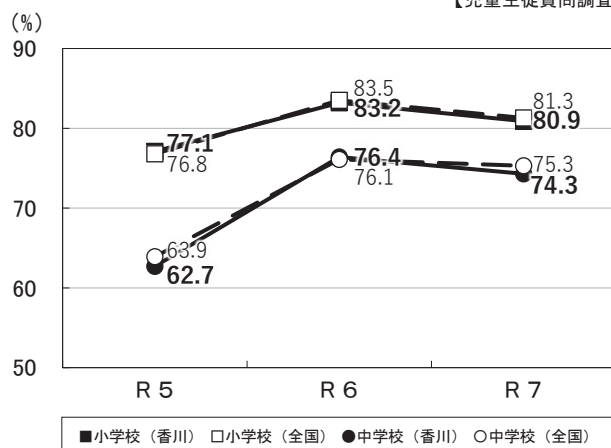


- ① そう思う ② どちらかといえば、そう思う
③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない
⑤ 取組を行わなかった ⑥ その他・無回答

【児童生徒は何かをしてみたい】

□27 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

【児童生徒質問調査】



Column

「■76 地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行った」と肯定的に回答をした割合は、小学校において全国を上回りました。一方、中学校においては、全国を約14pt下回る結果となりました。「■79 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、教員の業務負担軽減に効果がある」と肯定的に回答した割合が中学校において50%未満ということから、これらの活動が、中学校の教員にとって負担になっている可能性も示唆されます。また、このことが前述の「■76 協働による活動を行った」と肯定的に回答した割合が全国を大幅に下回ることに繋がったのかもしれませんが、「□27 地域や社会をよくするために何かしたいと思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、昨年度からは減少しましたが、全国と同等であり、依然高い割合で推移しています。児童生徒の思いをかなえるとともに、教員にとって業務負担の軽減になる活動が求められます。特に中学校においては、活動に消極的になっているかもしれません。コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組が持続可能となるためには、各校において、地域担当教員や地域学校協働活動推進委員（コーディネーター）を中心として、業務負担の軽減につながる地域を活用した効果的な取組を実施していく必要があるのではないのでしょうか。

授業や取組の改善に役立つリンク集

授業や取組の改善に役立つリンク集を紹介するので、ご活用ください。

◆国立教育政策研究所 HP

<https://www.nier.go.jp/kaihatu/zenkokugakuryoku.html>



国立教育政策研究所のウェブサイト。全国学力・学習状況調査について、その結果や報告書、調査問題などを公開。教育施策の改善や学校での指導に役立つ情報を提供しています。



◆「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のためのサポートマガジン『みるみる』

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiouen/mext_00001.html



文部科学省が送る、授業づくりのための公式サポートマガジン。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指し、基本の考え方や実践事例を分かりやすく解説しています。



◆香川県教育委員会 HP

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/gakko/index.html>



確かな学力の育成

生徒指導の充実



令和7年度
学校教育実践の手引

香川県教育委員会



香川県教育委員会のウェブサイト。確かな学力の育成や生徒指導の充実に向けて大切にしたい取組や、事業ごとの公開授業の案内、指導案等について紹介しています。

◆香川県教育センターHP

<https://www.kagawa-edu.jp/educ01/>

香川県教育センターのウェブサイト。



教職員研修ページでは、基本・専門研修、公開講演の案内や申込方法、オンライン研修の情報を掲載。教員の資質向上を支援します。



教育研究課のページでは、調査研究や研究発表会での資料を公開。また、研修サポート、教育相談、教育ライブラリーの運営など、教職員や学校を支援する事業を紹介しています。